

手を掛け、長い目で主体性を育みたい

4月号の特集で、愛知県立一宮高校の伊藤智先生（いとうちか）が言われた「主体性を育むには、まずは手を掛けることが今の生徒には必要だ」という言葉に大いに共感した。一昔前には、「生徒の自主性に任せる」と言って特別な指導や工夫をしない教師が少なからずいた。しかし、生徒に「自主的、主体的に取り組める力」を付けることは、教師の使命だと思う。生徒がそういう力を身に付けられるよう、課題を与え、負荷をかけることが必要だ。その際、成長には個人差があることを忘れてはいけない。高校生のうちに身に付けることが出来る者もいれば、そうでない者もいる。生徒一人ひとりを長い目で見ていきたい。

〔広島県広島市立沼田高校・正木勝治〕

数学の授業における主体性の育成を模索

数学の授業において、主体性をどう育ていくべきかに苦勞している。活用重視の学習では、課題学習がその中心に位置付けられているが、いつの間にか、教科書にあるものに対応してしまっている。身近な題材を使った教材を開発する必要を痛感しているが、一方で、数学の問題は数学の問題らしくした方が、生徒は取り掛かりやすそうな様子も見られる。どのように取り組んでいけばよいのかを試行錯誤している。

〔宮城県多賀城高校／私立常盤木学園高校・高谷将宏〕

3年間のビジョンに基づいた効率性が大切

4月号「指導変革の軌跡」の北海道北広島

Reader's VIEW

Volume **2**

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

高校、秋田県秋田市立秋田商業高校は共に、学校経営に必要不可欠な「高い効率力」を持っていると感じた。3年間のビジョンに基づき何が必要なのかを、時に素早く、時に時間を掛けて、生徒に合わせた変化球を出す指導が確立されているようだ。金と時間を掛ければ何事も達成は容易だ。しかし、成功している学校を見ると、限られた時間の中で効果的に勝負していると感じる。また、そのためには、生徒の要求する知識をピンポイントで引き出す能力と体験が不可欠であるとも思った。

〔愛媛県・匿名希望〕

教師も「団体戦」でシステムの継承を

4月号「指導変革の軌跡」の北海道北広島高校のシステムとノウハウの継承は素晴らしいと感じた。システムとして構築されていないければ、せっかくの取り組みもその時だけのものになり、学校全体の活性化にはつながらない。せっかく改善しても、前の学年ではこうしていたからと元に戻ってしまうこともある。改善を教師全員が自分たちの成果として感じられるように取り組んでいきたいものだと思う。少数の教師が頑張るのではなく、教師も「団体戦」という意識が必要だ。

〔富山県立立井高校・山口康子〕

教師川柳

ネクタイが板に付かない参観日

埼玉県・氷川の杜

子どもは未来

Benesse 教育研究開発センターでは、子どもたちの成長に寄り添う研究と社会への発信を通して、一人ひとりが学びに向かい、今と未来を“よく生きる”ことに貢献することを目指しています。

Benesse® 教育研究開発センター「VIEW21」編集部

編集後記

◎2日間の限られた「高校生未来プロジェクト」のワークショップの中で、「学びとは何か」という壮大なテーマを考えることは、不安なことでもありました。参加する高校生がどれほど納得する答えを見付けられるのだろうか。しかし、彼らは、私の予想をはるかに超えてさまざまなことを感じ、考え、自分の言葉で学びの意味と明日への意欲を堂々と語っていました。それは、彼らが「万人にとっての正解」「今すぐに全てを理解すること」を、求めていなかったからではないかと思えます。考えて語り合う、それを続けることの価値を改めて教えてもらいました。(青木)

VIEW21 6月号 Vol.2

2013年6月7日発行

発行人 岡田晴奈
 編集人 谷山和成
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンタコ
 執筆協力 中丸満、二宮良太、横堀夏代
 撮影協力 ヤマグチイッキ
 イラスト協力 カモ
 VIEW21編集部
 〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
 電話 042-311-3391

©Benesse Corporation 2013

VIEW21

2013
August
8月
Volume 3

次号は
8月23日発行(予定)
「VIEW21」高校版は
年6回の発行です